京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 90　　1960 2月（3月5日）

録事

前号に報じた如く，水族館の入場者は先月は昨年同期よりも1万名を越え，今月に入っては更に2万名をはるかに突破する盛況である．連日館内は異常な人波にあふれ，バス到着のラッシュ時などは身動きもできない有様で，ゆっくり観賞するなどの余裕は到底望むべくもなく，混雑のため不慮の事件でも起らねばよいがとおそれをなす．予想通り今年は空前の旅行ブームであろうことはまちがいのないところで，例外的小人数でやってきた本館では，群衆の整理にこの頃毎日悩まされている．

水族館自体の問題ではかりでなく，四囲諸般の状況は延びのびとなっている水族館の拡張政策の早期実現が本年最大の緊急事であることを物語る．

2月18日大阪学芸大学天王寺分校会議室で，臨海実験所を臨海実習のため共同利用する近畿府県の諸大学の実習関係者11名（8校）相集まり，今夏の臨海実習運営のことを協議した．実験所側からは宮地所長，時岡・布施両所員が列席した．

山路委員編纂の原色図版入りパンフレット「水族館ー見学とかんさつー」がこの程東京谷口書店より発行されたので，今月より2000部ほど水族館で販売をはじめた．

宮地会長は去る1月3日より9日まで，第47回インド科学会議に出席のため，空路インド国ニューデリー市に出張した．

2月11～14日，布施委員と高松研究員は内海区水産研究所の実施する機船底曳網による四国沿海の漁場調査に便乗して，四国東海岸方面の調査に参加した．

委員福島猛雄氏の京都大学工学部への突然の配置転換（１月１６日付）に伴ない，下記の如く委員の交代が行われた．　会長より役員各位の御承認を得たくお願い致します．

２月１日　委員の嘱託を解く　　委員　福島猛雄

２月１日　本会委員を嘱託する　　　加藤一郎

加藤委員は理学部事務官会計掛長です．

業 務 概 況

◎ 2月の入場者数

区分		大人 本月分計	大人 累計	小人 本月分計	小人 累計	合計 本月分計	合計 累計
水族館発売	個人	10196	84688	169	6733	10365	91421
	団体	23609	149113	―	―	23609	149113
交通公社発売		12432	68705	―	―	12432	68705
明光バス発売		22385	202645	115	6743	22500	209388
合計		68622	505151	284	13476	68906	518627
無料		国鉄東京車務車掌他				71	1026

団　　体：一般　　288組，学生　　4組　合計　　292組

◎ 2月の事業収入

		(今年度累計)
観光券売上金		
窓口発売	578,710	4,066,870
交通公社クーポン	195,936	1,057,266
明光バス観光券	405,378	3,609,253※
予金・積立金利子	―	437,386
雑収入	35,626	261,708
魚类拂下	―	1,080
絵はがき拂下	22,910	272,360
パンフレット拂下	8,250	8,250
計	1,246,810	9714173

※　明光バス観光券未収分　　動植水共通大人券　　25622枚

　　　　　　　　　　　　　　仝　上　小人券　　157枚

◎ 2月の支出

水族館経費

費目	金額	累計	備考
人件費	82,135	1,185,774	
会議費	1,110	91,864	
備品費	800	73,040	トンボ鉛筆削り
消耗費	12,530	392,423	
事業費	66,366	540,348	
維持費	144,990	262,475	予備電源装置据付他
共/他諸経費	6,934	576,000	
積立金	248,407	1,887,783	
合計	563,272	5,009,707	

実験所経費

費目	金額	累計	備考
研究費	12,015	145,813	布施委員
奨学金	—	12000	
備品費	3,570	282,487	図書
消耗費	—	—	
刊行費	332,200	495,151	Publ. vol.7. no3及び総目次印刷
役務費	39,005	61,555	山路宿舎各所修理
合計	386,790	997,006	

博物館経費

費目	金額	累計	備考
人件費	41,586	443,354	
備品費	—	15,000	
消耗費	—	—	
役務費	—	1,860	
合計	41,586	460,214	

臨時費

摘要	金額	累計
三相交流発電機	458,000	508,000
合計	458,000	508,000

支出合計

		(今年度累計)
水族館経費	563,272	5,009,707
実験所経費	386,790	997,006
博物館経費	41,586	460,214
臨時費	458,000	508,000
計	1,449,648	6,974,927

◎ 2月末現在高

前月よりの繰越	2,942,084
今月の収入合計	1,246,810
今月の支出合計	1,449,648
現在高	2,739,246

◎ 前年度との比較

	1959	1960	増減
入場者数	44,929	68906	+ 23977

水族館記事

◎ 今月に入って実験所の北の浜で地引網が始まった．イカ類，ハコフグ類，ハリセンボン，イシガキフグなどがとれるので，もらいうけて飼育するようにしている．

◎ クマノミが先月末に2個体死亡して現在1個体のみ生き残っているので，採集をかねて，上旬に畠島東で潜水して観察したが発見出来なかった．　その際，あわせて，サンゴイソギンチャク，オウギフトヤギ，ケヤリムシ，ラッパウニ，アメフラシなど採集した．

◎ 昨年6月以来絶えていたエビスダイが27日，28日に合計4個体入槽したのでNO.27水槽に入れて観覧に供している．

◎ マツカサウオが久方ぶりに25日に3個体入槽した．

◎ 中旬から下旬にかけてコウイカが13個体入槽した．　29日現在，8個体が生き残っている．

◎ 1日にゴンズイが約200個体入槽したのでNO.31水槽に入れた．

◎ 7月以来飼育していたオトヒメエビは，1日に2個体とも死亡した．

◎ コバンザメは4日に，残る1個体も死亡し，全滅した．

◎ オオカイカムリは中旬に3個体とも死亡した．

◎ 昨冬以来窓際の水槽（NOS．1〜4）にタマウミヒドラとベニクダウミヒドラが多数発生したので，一部採取固定して保存することとした．

◎ 2月29日現在，観覧水槽に収容飼育中の動物は総計135種，1344個体以上で，その内訳は次の通り．

カイメン類	1種，	カブトガニ類	1種，	ウミシダ類	1種，
ヒドロムシ類	1〃，	エビ類	7〃，	ヒトデ類	3〃，
ウミトサカ類	1〃，	ヤドカリ類	4〃，	ウニ類	9〃，
ヤギ類	4〃，	カニ類	6〃，	ナマコ類	6〃，
イソギンチャク類	8〃，	シャコ類	2〃，	ホヤ類	3〃，
サンゴ類	11〃，	二枚貝類	3〃，	軟骨魚類	7〃，
スナギンチャク類	1〃，	巻貝類	9〃，	硬骨魚類	45〃，
ハナギンチャク類	1〃，	アメフラシ類	3〃，	カメ類	3〃，
ホウキムシ類	1〃，	イカ類	1〃，		
多毛類	2〃，	タコ類	1〃．		

博　物　館　記　事

◎　四双島沖で２月２７日採取されたアオアラ１尾を入手した．

資　　　料

◎　２月の気象　　　（９時観測）

南水槽室　　　（水温比重はＮ０.２５水槽）

	上旬	中旬	下旬
晴天日数（17）	4	6	7
室　温（°C）	8.7 〜 14.2 11.2	7.8 〜 12.8 9.8	7.5 〜 15.9 11.2
水　温（°C）	13.22 〜 15.35 14.29	12.65 〜 14.32 13.47	12.47 〜 15.92 14.27
比　重（0/15）	25.39 〜 25.66 25.55	25.46 〜 25.75 25.58	25.66 〜 25.83 25.74

取入口

	上旬	中旬	下旬
水　温（°C）	14.23 〜 16.40 15.31	13.38 〜 15.31 14.15	13.79 〜 16.78 15.21
比　重（0/15）	25.46 〜 25.76 25.62	25.39 〜 25.74 25.59	25.67 〜 25.88 25.79

来　訪　録

２月３日　東京教育大学理学部庶務係長柳生繁雄氏（水族館及び臨海実験所の運営調査）．

２月１８日　日本ユネスコ国内委員会事務局企画課細井市太郎事務官（ユネスコ委託研究の連絡）．

２月２３日　横浜国立大学学芸学部庶務係長菅井清司氏（水族館及び臨海実験所の運営調査）．

２月２４日　東京大学経理課長高林義雄氏（水族館及び臨海実験所の運営調査）．

昭和35年3月5日 (NO. 90)

編集兼
発行者　内海 富士夫

発行所　瀬戸臨海実験所
和歌山県 白浜町
瀬戸臨海実験所内
(Tel.白浜温泉515)